

平成29年度宮崎県立高鍋高等学校 学校評価書

重点目標	評価項目	具体的方策または指標	自己評価	学校関係者評価	
				成果と課題	評価・具体的意見
学校経営ビジョン ・生徒一人ひとりのもてる力を十分に発揮させ、生徒の自己実現に邁進する。 ・社会に貢献できるたくましい人材を育成する。		目指す学校像 保護者、地域、同窓会との連携による信頼される活力ある学校	目指す教職員像 生徒の心に火を灯す熱心な指導を展開し、自らも学び続ける教職員	評価基準 4:十分に達成できた 3:概ね達成できた 2:やや期待を下回る 1:不十分であり改善を要する 重点目標4項目に関する自己評価は、各校務分掌等の関係項目の評価値を平均したものである。	
1 確かな学力の向上と進路実現	基本的生活習慣の確立	1. 校門での挨拶運動を実施する。容儀に関する全職員による常時指導を徹底する。朝の正姿の時間の指導を徹底する。 ・学年集会を有効活用を活用する。 ・生徒指導部、保護者と密に連携する。 2. 進路ガイダンスを実施する。 3. 進路指導(学年連携)及び2分前着席(教科担任連携)を指導する。 4. 関係機関や地域と連携し、講話やHR活動を通しての教育や規範意識を高めるための教育を充実させる。	3.08	成果 ・就職率(民間)100%(10名中10名内定) ・就職先...宮崎県警2名、自衛隊関係12名 ・国公立大学合格者 52名(3/26現在) 現役 49名 過年度 3名 現役の推移 H23 H24 H25 H26 H27 H28 46 42 38 58 59 55	3.55
	学力の向上	1. 教務・生指・進路と連携をとり、適切な課題について協議する。 2. 年間の定期考査のシラバスを示し、生徒が計画的に取り組めるようにする。 3. 課外、土曜講座について柔軟に対応し、充実させる。 4. 国公立大学個別学力試験対策(入試問題研究等)を充実させる。 5. 推薦入試の研究を深め、組織的に対応する。 6. 受験における小論文指導及び面接指導を体系化する。			
	キャリア教育の充実	1. BUI時間を利用して、面談指導を充実させる。 ・進路講演会、進学講演会を時季をとり実施する。 2. 進路ガイダンスの実施する。(1年次) ・高鍋わ(わ)く講座(PTA職業講座)を実施する。(1年次) ・大学出前講座を実施する。(2年次) 3. オープンキャンパスに参加させる。(2年次) 4. インターンシップを実施する。(2年生生科) 5. 進路説明会や企業説明会に積極的に参加させる。 6. 就職について生徒保護者に対する説明会を実施する。			
2 地域に信頼される活力ある学校づくり	部活動、学校行事、生徒会活動の活性化	1. 生徒会執行部の活動に対する支援及び定例生徒会委員会や各種行事における実行委員会の活動に対する支援を行う。 2. 関係部や学年と連携して効果的な計画立てを行うとともに活動内容の充実を図る。 3. 学友団活動は団長を中心に地域貢献に向けた活動を充実させる。 4. 新入生の加入に向けて配慮する。活動内容や大会・試合日程、結果等を校内外に喧伝し応援・支援体制を向上させる。 5. 部活動時間に対する意識の向上を図り、活動環境の美化に努めさせる。 6. 部顧問、学級担任、教科担任の連携を密にして、宅留時間の確保と授業や課題等に取り組む姿勢を向上させる。	3.68	成果 ・部活動加入率95.8%(H28は93.7%) ・ハイレベルな実績 全国大会...ラグビー、ホッケー、ボート、剣道 JRC、放送、将棋、ビブリオバトル 九州大会...ラグビー、ホッケー、剣道、水泳 写真、放送 ・生徒実行委員会主催行事の成功 新入生オリエンテーション、歓迎遠足、 鳴海ヶ丘祭など ・オープンスクール500名以上の参加 ・中学校での出前授業(国、数、英、作文、読み方) ・ボランティアへの積極的な参加 高鍋城灯籠まつり、都農尾鈴マラソン 高鍋東小防災フェスタ、読み聞かせボランティア ・HP、広報誌「明倫」などによる情報発信	3.82
	地域、保護者及び小、中学校との連携強化	1. 在校生への事前指導の徹底、企画・運営の更なる工夫、そして地域への宣伝を強化する。 2. 年に1回、土曜日に実施し、中学生にも案内することで参加率を増加させる。 3. 年に2回の中高連携の他にも近隣の中学校への出前授業なども積極的に実施する。 4. 地域のボランティアに積極的に参加する。 5. 全国、九州、県、地区高P連主催の大会に参加し、情報を生徒に還元する。PTA支部研修会を実施する。場合によっては複数の支部での合同実施も検討する。 6. PTA専任作業を、各支部との連絡調整を密にして保護者へ参加を呼びかける。 7. PTA売店委員会による食品販売について、時間や場所などを検討し実施する。			
	広報活動の充実	1. 広報委員会によるPTA新聞の作成・発行する。(年4回=1学期2回、2学期1回、3学期1回) 2. HP、広報誌(明倫)、マスコミ等を活用し、積極的に情報を発信する。			
3 教職員の資質向上	心の教育の推進	1. 共に清掃に取り組むことで師弟のコミュニケーションを図り気づき心育てる機会とする。 2. 交通マナーの向上を図る指導を充実させる。自転車施設、教室の施錠や貴重品管理を徹底させる。 3. 携帯電話やスマートフォンの適正な利用や情報モラルの向上に対する指導に努める。 4. ・保健室入室時の個別指導の機会を捉えた指導を行う。 ・保健便りによる家庭への啓発活動を実施する。 5. ・学級担任・教育相談部、関係職員を交えた取り組みの強化を図る。 ・面談指導を充実させる。 ・教育相談アンケートのと相談週間を実施する。 6. 教育相談室を活用し生徒が相談しやすい雰囲気づくりに努める。 7. 支援学校や支援機関、高鍋町内の諸機関との連携をすすめる。 8. ・いじめ、不登校対策委員会後はすみやかに対応する。 ・学年会との連携し、LHR「人権教育」の実践を充実させる。 9. ピア・サポート活動を実施する。 10. 関係機関から情報を得て講演会の講師を選定し、生徒の心に響く講演会を実施する。	3.27	成果 ・教育相談部の設置による相談体制の充実 ・町などの外部機関との連携強化による支援体制 ・ケース会議など組織的な対応によるいじめ事案の解消	3.36
	健康安全教育の推進	1. 毎学期に安全点検を行い不備箇所の修理改善を行う。 2. 生徒一人ひとりが意識して取り組む防災教育を各教科で行っていく。 ・学校被災時の連携を確認しておく。 ・学校内の非常用品の備蓄を確認する。 3. 危機管理マニュアルの見直しと役割など内容の確認を行う。			
	授業力の向上	1. 各教科で基礎基本定着のための取組と問題解決力を身に付けるための授業の在り方について協議する。また宮崎大学との連携を図る。 ・校内授業研究では教科横断的な取組を行い、宮崎大学との連携を図る。また、生徒の授業評価を有効に活用する。			
4 普通科探究科学コースの育成と普通科、生活文化科・生活情報科のさらなる充実	普通科	1. 自宅学習時間を確保させ、自宅学習を充実させる。(自宅学習調査の実施) 2. 授業が勝負、を徹底させる。 3. 基礎学力の定着のための基礎学力養成講座を充実させる。 4. 低学年次からの志望校対策指導を実施する。	3.23	成果 ・普通...元気な挨拶と端正な容儀の定着 基本的生活習慣の確立	3.55
	普通科探究科学コース	1. 宮崎大学との連携を図る。また、学習会を充実させる。 ・ハイレベル模試を実施する。 ・英検2級合格を目指した指導や支援を行う。 2. オープンキャンパスに2年生全員を参加させる。 3. 研究発表会に向け細やかに指導する。 ・合同研修会の充実 4. 校内外のボランティア活動の呼びかけ。また、生徒会活動を支援する。 5. オープンスクールでの本校生徒による発表および説明を支援する。			
	生活文化・生活情報科	1. 生徒の実態に合った効果的な授業改善を行う。また、難易度の高い上位級に対しては、放課後、すきま時間を有効に活用させる。 2. 生徒とのコミュニケーションを密に取り、普段から相談に乗る体制をととのえ、学科全体で生徒の進路をバックアップする。 ・生徒情報の共有を密にする。 ・インターンシップを通して職業についての意識付けをする。 3. ・HPを随時更新することで、地域や小中学校に向けて活発な取り組みを発信する。 ・外部講師招聘事業の内容をさらに充実させ、新学科にもとう新たな特色を開拓する。 4. 学校行事や学科独自の取り組みに積極的に参加させ、自己の役割を通してキャリア発達を促す。 5. 検定合格や学校行事への参加、専門科目への意欲的な取り組み、対外的な発表会への参加と上位入賞を目指す。			

・先生方が努力して、生徒に伝わって結果が出るという良いサイクルができてきていると思う。再編後の新学科などが高鍋高校全体の底上げになるような戦略が必要である。
 ・探究科学コースの成果と手法を普通科にも拡大展開する時期にきている。「主体性」「社会を見せる」「相互支援」がキーワードになるのではないかと、この取り組みを、まずは一部のクラスからでも早めに着手することが大事である。
 ・宮崎大学との連携等を更に推進していただき、充実した学科・コースにしていただきたい。
 ・様々な資格の取得は生徒の自信にもつながるので引き続き行っていただきたい。
 ・外部講師の授業は非常に良い取組なので、是非アピールしてほしい。